

文法への扉—言葉のまとまりを考えよう

文法—I 言葉の単位

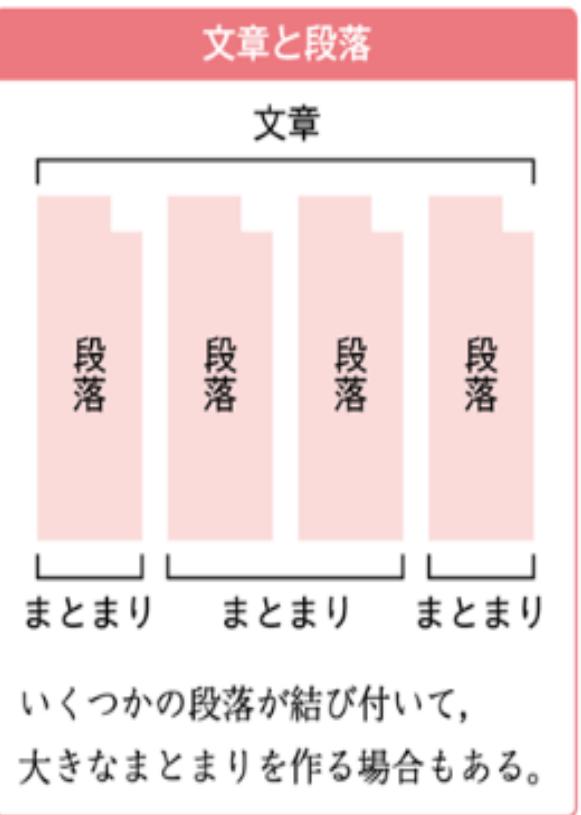
【目標】

- 言葉の単位についてまとめよう。

①

一編の論説・小説のように、一まとまりの内容を、文字で書き表したものを文章、日常の会話など、音声で表された一まとまりの内容を、談話とよぶ。多くの場合、複数の文が集まつてできている。

②



書き手が、意図をより明確に伝えるために、文章を内容のまとまりごとに区切ったもの。段落の初めは改行し、一字下げる。

談話	文章
<p>一まとまりの 内容を音声で 表したもの。</p> <p>会話</p>	<p>一まとまりの 内容を文字で 表したもの。</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none">・一通の手紙・一編の論説・小説・詩・短歌一首・俳句一句

名前

一年組番

③

「何(だれ)が一どうする・どんなだ・何だ・どうしたい・どうしろ」など、一まとまりの内容を表す一続きの言葉。最後に「。(句点)」を付ける。「?。(疑問符)」や「!。(感嘆符)」を付ける場合もある。)

× 天気予報は雨だそうだ。そうか。そうすると遠足は延期になるかも知れない

○ 天気予報は雨だそうだ。 そうか。 そうすると遠足は延期になるかも知れない

④

発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切つたまとまり。

文
山の上にすずしい風がふく。

× 山 の上にすずし い風 がふく。
× 山の上 にすずしい風 がふく。

文節
山の
上に
すずしい
風が
ふく。
ね
ね
ね
ね
ね

⑤

言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたもの。それだけで使える言葉としては、最小の単位。

文節
山の
上に
すずしい
風が
ふく。

単語
風 +
が
ふく。
上 +
に
すずしい

単語の種類
の
に
が
すずしい
山
上
風
ふく
動作(変化)や様子を表すもの。
別の単語の下に付いて、文節を作るもの。